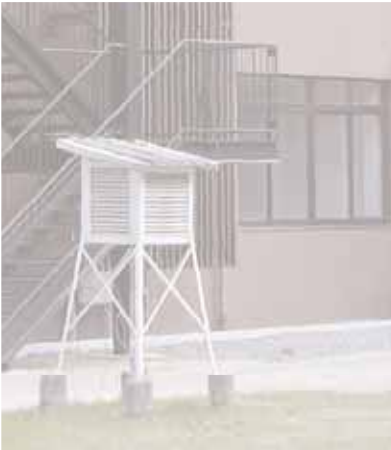


香川大学博物館

3年間の歩み

2011.3



ごあいさつ

先日、近隣の大学関係者から「小さな博物館ですね。」という感想をいただいた。県土に合わせてというわけではありませんが、確かに狭い。したがって収蔵、整理、展示の機能はどれをとっても十分ではありません。しかし、本館の目標はこれを3つの方法で克服するところと合致します。1つは大学全体が博物館であるという考え方です。博物館の資料は登録品、収蔵品、展示品に分けられます。登録品は大学に帰属する学術資料がほとんどです。数万点にのぼります。これらは大部分が大学各部署の資料室、実験室、研究室に保管されています。このうち各部署での保管形態が不十分なものを博物館が収蔵しています。そして展示品は収蔵品の一部ということになります。博物館は大学博物館のセンターであり、シンボルです。しかし、博物館以外では資料を觀賞することはほとんど不可能です。それを克服するのが2つめの方法です。デジタル博物館を併設していることです。厳密に言えば準備しています。ホームページのデジタル博物館サイトに登録品のデータベースを構築します。この博物館の展示、収蔵能力は極めて高いものがあります。しかし、データベース構築は大変な作業の上、専従者が現在いないので、この博物館の展示、収蔵は遅々として進みません。3つめはミュージアム・レクチャーをはじめとする、整理室を場としたさまざまな活動です。収蔵物整理機能を拡張した試みです。博物館は過去、現在、未来が共存する仮構の世界が実物によって体験できますが、しょうがいのある人々には体験は限定的です。展示室には多くの制約があります。しかし、整理室はバリアフリーの展示室になります。整理作業はバリアフリーが条件だからです。整理室は博物館の可能性を拓ける未来への入り口です。

このように香川大学博物館は見た目より大きくなる博物館です。成長する博物館です。



香川大学博物館長
丹羽 佑一

2011年4月1日から館長を務めることになりました。専門は地質学で、国内はもとより海外10カ国、20以上の地域でフィールドワークを行ってきました。地質学を志した理由を良く聞かれますが、たいていは富山県の黒部川のそばで生まれ、自然の中で育ったからだろうと答えていました。ですが2010年6月に小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワのサンプル採取を試みて帰還した映像を見て思いました。1969年にアポロ11号で人類が初めて月面に降り立った映像をテレビで見た小学生だった私は、翌1970年に大阪で開催された日本万国博覧会に、父に連れられ富山から国鉄色の特急雷鳥に乗って行きました。その時に行列が何重にも取り囲んだアメリカ館で月の石を見たときの感動が、現在に至っているのではないかと思ったのです。「はやぶさ」の帰還には、多くの方々が感動されたと思います。香川大学博物館では、「映像だけでなく本物を」、「40年前の感動を香川の子供たちにも」と一井学長をはじめ学内外の方々のバックアップで、2011年10月にJAXA宇宙航空研究開発機構の協力で本物の「はやぶさ」帰還カプセルを巡回展示できることになりました。子供たちだけでなく、41年前に月の石を見られた方もそうでない方も、多数のご来場をお待ちしています。

香川大学博物館は、構想から設置にいたるまでの2年余りは岡野眞工学部教授（当時）、設置から開館を経ての4年間は丹羽佑一館長を中心として歩んできました。私が繁栄か衰退かの境目と言われる三代目となります。今後も改善や解消していくべき課題がありますが、二人の副館長および職員らと力を合わせ、博物館会議委員と学外協力員の力をお借りしながら、今後も微力ながら取り組んでいきたいと考えています。これからも皆様の益々のご支援をお願い申し上げます。



新・香川大学博物館長
寺林 優

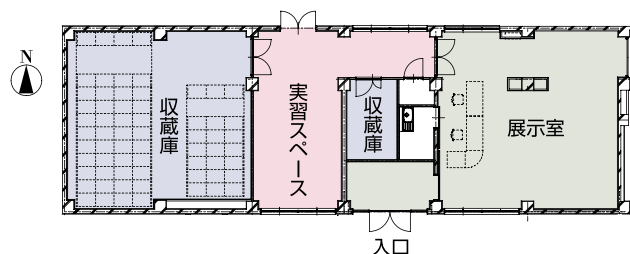
理念と目標

香川大学博物館は、香川大学と地域との連携を文化面から深めるために以下のような理念と目標を持って設置されました。

1. 香川大学の教育・研究において蓄積された数万点に及ぶ標本・資料・発明品などの知的財産の収集・保管・研究活動に重点を置く。
2. 香川大学における教育・研究の成果を活かし、地域の自然や文化を研究する市民研究者や郷土史家、小中高の教員、学芸員、サイエンスボランティアなどの研修や交流の場としての「教育・研究型」博物館。
3. 香川大学の教職員がその専門的な知識や経験を生かして、香川県全域に展開するさまざまな博物館・資料館、及び歴史、地理、生物、科学、地学などに関する研究団体などの研究活動を支援する「地域密着型」。

施設

香川大学博物館は、香川大学幸町北キャンパス幸町北1号館の1階にあり、展示室、収蔵庫、実習スペースを備え、延床面積約250㎡です。



活動

1. 収集・保存

香川大学の全ての学部、各学科、各研究室などに所蔵されている標本・資料のリストを作成しホームページで公開する。大学の教育・研究活動によって増加する標本・資料を収集・保管する。さらに学外から寄贈・寄託される標本・資料を積極的に受託する。



2. 展示・交流

博物館の基本的性格を示す常設展のほかに、大学内の教育研究成果や、大学博物館と学外のさまざまな個人、団体との協力によって多様な企画展を開催する。

3. 教育・普及

「モノ」を通して、真理を学ぶ生涯学習の場を提供する。本学教職員や学外協力員をミュージアム・アドバイザーとして、学生や学外の個人、団体が共に研究し、学ぶ「協育」を基本とする。多彩なテーマのミュージアム・レクチャーを開講する。企画展のテーマにあわせた公開講座を香川大学生生涯学習教育研究センターと協力して開講する。



<高松高等商業学校>

1928(昭和3)年

9月12日 御大典奉祝事業として商業博物館の設置が決定

1929(昭和4)年

4月26日 商業博物館規定、および主事1名と委員11名が決定
5月9日～12日 第1回臨時展覧会開催(出品総数1,663点)

<香川県師範学校>

1930(昭和5)年

文部省より郷土研究施設費が交付される
→「郷土室」開設

1933(昭和8)年

10月 「郷土館施設概要」刊行

<香川県女子師範学校>

1930(昭和5)年

8月 文部省より郷土研究施設費が交付される
→「郷土研究室」開設

1933(昭和8)年

3月 郷土研究室新設(手狭になったため)
9月 「郷土室施設概要並に目録」刊行

1949(昭和24)年

香川大学が発足(経済学部・学芸学部)

1955(昭和30)年

農学部設置(香川県立農科大学が移管)

1956(昭和31)年

神原文庫の寄贈

1978(昭和53)年

香川医科大学開学

1981(昭和56)年

法学部設置

1997(平成9)年

工学部設置

2003(平成15)年

旧香川大学と香川医科大学が統合し、新しい香川大学が発足

2005(平成17)年

1月 木村好次学長の指示で大学博物館設置に関する研究会が発足
3月 「香川大学(仮称)『大学博物館』設置趣旨」が役員会で承認
5月 平成17年度学長裁量経費「大学博物館(仮称)設置計画に関する調査・研究」のため香川大学博物館研究機構が発足(代表 岡野 眞工学部教授)
10月 国立大学博物館等協議会にオブザーバー加盟

2006(平成18)年

3月 名誉教授座談会「大学博物館について」開催
4月 博物館委員会が発足
6月 国立大学大学博物館等協議会に加入
12月 「香川大学『大学博物館』設置計画書」が役員会で審議され、「香川大学博物館」として平成19年4月1日付けで設置することが承認

2007(平成19)年

1月 第1回学外特別展「香川大学のあしあと」開催
4月 図書館・情報機構内に「博物館」設置

2008(平成20)年

1月 第2回学外特別展「かがわの里山」、公開シンポジウム「大学の資源を地域の教育に生かす～大学博物館の目指すもの～」開催
3月 博物館の竣工
4月 ホームページ公開・一般公開開始(24日)

常設展示

教育学部

国分台遺跡の
含火山灰土と旧石器
(坂東祐司先生からの送り物)



教育学部

北投石
(中華民国台北市北投温泉)



教育学部

瀬戸内海産貝類標本
(畠山祥一郎コレクション)



法学部

英国単語圖解
市川央坡2巻明治5~7刊
(香川大学神原文庫)



経済学部

弥生土器
(農学部遺跡・約2300年前)



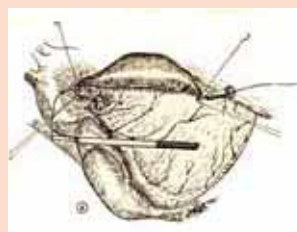
経済学部

足跡剥ぎ取り標本
(農学部遺跡・
奈良~平安時代)



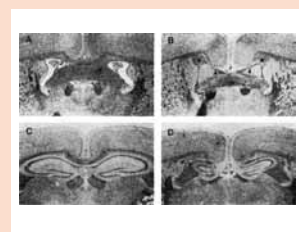
医学部

ワイヤーガイドナイフ
(心臓血管手術用メス)



医学部

脳梁欠損マウス
(回避学習用の実験動物)



工学部

摩擦試験機
(昭和49年製)



工学部

香川発超小型人工衛星
(2009年打上げKUKAIの模型)



工学部

岩石
(地球最古生命化石の場等)



工学部

長尾断層剥ぎ取り標本
(香川県三木町水上)



農学部

香川の昆虫今昔
(里山の生物相の変遷)



農学部

香川大学オリジナルワイン
ソヴァージュ・ヌ・サヴルーズ
(農学部交配品種「香大農R-1」使用)



農学部

酒米「さぬきよいまい」
(1990年から農学部で
育種がスタート)



農学部



希少糖
(自然界での存在量が少ない
糖の生産に成功)



データベース

学術標本資料の情報を一元的に管理し、学内の教職員や学生はもとより、学外の方々も情報を利用できるようなデータベースの構築をめざして整備を進めています。現時点では、登録・収蔵標本の概要についてホームページ上で紹介するとともに、農学部保管されている1960年代に採集された昆虫標本（松沢コレクション）を中心とした所蔵標本のデータベースを作成中です。これまでに1,841個体の標本が整理されていますが、まだ膨大な量の標本が未整理のままです。今後は、2001年に活動が始まった国際科学プロジェクトであるGBIF（Global Biodiversity Information Facility = 地球規模生物多様性情報機構）にも利用可能な形式のデータベース化をすすめるとともに、自然科学系の標本のうち、ある程度まとまったコレクションがあるものについては、順次データベースを作成して公開する予定です。

松沢コレクションの一部

	オオミドリシジミ		シートテハ
	香川県三木町		香川県三木町
	1958年6月5日		1958年8月6日
	Saekusa, K		Saekusa, K
<p>香川県では準絶滅危惧種に指定されており、近年三木町周辺では見ることはまれ。</p>		<p>西南日本で近年ほとんど記録がなく、各県で絶滅種とされている。香川県でも1980年代を最後に記録が途絶えている。</p>	

香川大学博物館のホームページでは、標本資料のデータベースに加え、これまでに開催した「学外特別展」と「企画展」の展示パネル等も公開しています。

入館者数・主な団体

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
入館者数	3,927人	2,249人	2,415人(2月末日まで)
香川大学関係	教育学部：授業「社会教育課題研究Ⅱ」、同窓会連合会：ホームカミングデー	全学共通：教養実験「地学P」、教養ゼミナール「街の化石と岩石」、経済学部：授業「観光地理学」、工学部：授業「数理演習Ⅱ」、地学サロン	全学共通：教養ゼミナール「街の化石と岩石」、生涯学習教育研究センター：公開講座「讃岐ジオサイト探訪」、同窓会連合会：ホームカミングデー
学校・PTA等	香川県立高松東高等学校、香川県立高松南高等学校、香川県立琴平高等学校、香川中央高等学校、岡山龍谷高等学校、香川大学教育学部附属坂出中学校、高松市立亀阜小学校、香川大学教育学部附属特別支援学校、讃岐学園、西春日保育所学童保育	香川県立三木松高等学校、香川県立三木高等学校、香川県立高松南高等学校、香川県立琴平高等学校、香川県立高瀬高等学校、香川中央高等学校、香川大学教育学部附属高松中学校、香川大学教育学部附属高松小学校、二番丁幼稚園	香川県立三木高等学校、香川中央高等学校、高松市立桜町中学校、高松市立亀阜小学校、香川県立高松養護学校、香川大学教育学部附属特別支援学校、岡山県立笠岡商業高等学校PTA、鳥取中央育英高等学校PTA
その他	三木町文化財保護協会、三豊市消費者友の会、第1回日本地学オリンピック	コズミックカレッジ2009、第2回日本地学オリンピック	和歌山市立博物館

特別展

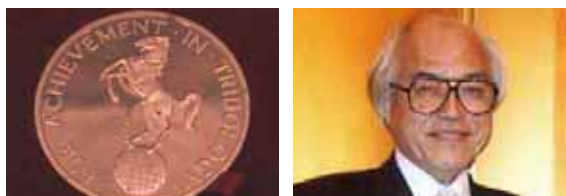
サヌカイト標本展示開始記念式典

年月日：2005年7月11日(月)
会 場：香川大学工学部3号館1階エントランスホール



木村好次学長退任記念特別展

期 間：2005年9月20日(火)～11月3日(木)
会 場：香川大学工学部3号館1階エントランスホール



緊急展示 「アスベスト問題(1)アスベストとは何か」

年月日：2005年11月3日(木)
会 場：香川大学工学部2号館1階
内 容：工学部オープンキャンパスでアスベスト原石を展示



The Wonder Box ユニヴァーシティ・ミュージアム合同展

期 間：2006年11月4日(土)～12月17日(日)
会 場：東京藝術大学大学美術館
内 容：「会話する足跡－香川大学農学部遺跡」を出品

■2007年度香川大学公開シンポジウム 大学の資源を地域の教育に生かす ～大学博物館の目指すもの～

年月日：2008年1月24日(木)
講 師：林 良博 (東京大学総合研究博物館長)
田井静明 (香川県歴史博物館主任専門職員)
丹羽佑一 (香川大学博物館長、香川大学経済学部教授)
清國祐二 (香川大学生涯学習教育研究センター長)
会 場：高松市生涯学習センターまなび CAN 多目的ホール
参加者：80名
主 催：香川大学生涯学習教育研究センター
共 催：香川大学博物館

第1回学外特別展「香川大学のあしあと」

期 間：2007年1月23日(火)～28日(日)
会 場：ヨンデンプラザ1Fギャラリー
入場者：911名



第2回学外特別展「かがわの里山」

期 間：2008年1月22日(火)～27日(日)
会 場：ヨンデンプラザ1Fギャラリー
入場者：507名



企画展

第1回
企画展

ウズベキスタンの現代建築と世界遺産

期 間：2008年6月3日(火)～28日(土)

入場者：475名

中央アジアの中核をしめるウズベキスタンは、シルクロードの中核をしめていた。首都タシケントと世界遺産に登録されているブラハ、ヒヴァ、サマルカンド、シャフリサーヴスの5つのオアシス都市ご



とに、現代建築と伝統的建築のパネルを展示。生活空間をいろどる小物類（スザニ、絹織物、土人形、陶器、装飾小物、細密画など）を展示

共 催：ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金駐日代表部、世界麺フェスタ2008 in さぬき実行委員会
協 力：キュレレーターズ(東京)、中央アジアユーラシアクラブ(群馬)

特別
講演会

「シルクロードの国々の現状 ～独立後の経済開発～」

年月日：2008年6月13日(金)

講 師：田中哲二 (中央アジア・コーカサス研究所副理事長兼所長、国連大学学長上級顧問)

会 場：香川大学研究交流棟5階 研究者交流スペース

参加者：89名

共 催：放送大学香川学習センター、香川大学経済学部



講演会

「ウズベキスタンの現代建築と装飾的建築」

年月日：2008年6月14日(土)

講 師：岡野 眞 (企画展実行委員長、工学部教授)

会 場：香川大学研究交流棟6階 生涯学習教育研究センター講義室

参加者：(講演会) 53名、(ミュージアムトーク) 20名

第2回
企画展

昆虫のふしぎ

期 間：2008年7月23日(水)～9月20日(土)

入場者：1,302名

香川県立農業専門学校(香川大学農学部の前身)昆虫学教室の初代教授岩田久二博士が研究した香川県の昆虫、香川県の87種のアリ、三木町白山のチョウ、オリーブの宿敵・オリーブアナアキゾウムシ、



クスギなどの樹液をめぐる昆虫類を展示。昆虫のふしぎ(性的二型と性淘汰、擬態、ふしぎな形・美しい色、個体変異・地理的変異・種分化へ)に関する標本を展示。大屋崇博士(三豊総合病院元副院長)のトリバネアゲハコレクションを特別展示

共 催：香川大学農学部

公開
講座

「モノ」の見方 ～研究はじめての第一歩～」

年月日：2008年7月23日(水)・24日(木)・25日(金)

講 師：安井行雄 (企画展実行委員長、農学部准教授)

寺林 優 (博物館副館長、工学部准教授)

丹羽佑一 (博物館長、経済学部教授)

会 場：香川大学博物館

参加者：(1日目：昆虫標本) 28名

(2日目：化石) 26名

(3日目：石器・土器) 25名



第3回
企画展

瀬戸内の海・干潟・海浜の生き物

期 間：2009年7月23日(木)～8月29日(土) 入場者：578名

瀬戸内の海中と海辺の様子を探る展示。「海」瀬戸内海を支えているのはとても小さな生き物たち。これらの微生物や香川大学工学部で開発された人工漁礁等を展示。「干潟」海でもあり、陸でもある干潟に生息する生物を展示。「海浜」高温や乾燥、海水による塩害など、生物にとってはたいへん厳しい環境のため、生物の多様性は決して高くはないが、このような場所でしか見ることができない海浜植物や昆虫等を展示



共 催：香川大学瀬戸内圏研究センター



公開
講座

「海岸の砂浜や海にすんでいる生物を調べよう」

年月日：2009年8月4日(火)・5日(水)・6日(木)
講 師：伊藤文紀 (企画展実行委員長・博物館副館長、農学部教授)
末永慶寛 (工学部教授)
松本一範 (教育学部准教授)
会 場：香川大学博物館
参加者：(1日目) 23名、(2日目) 23名、(3日目) 25名



第4回
企画展

瀬戸内今昔観光遊覧

期 間：2009年10月31日(土)～11月28日(土) 入場者：478名

旧石器時代から弥生時代までの石器・石材中、西日本で最も広く用いられた香川県の名産サヌカイト。古代瀬戸内海域に広く流通したのは何故か、坂出市金山の発掘出土品を展示して紹介。



1934(昭和9)年に指定された日本で最初の国立公園のひとつが瀬戸内国立公園。当時の瀬戸内海の景観を示す珍しい資料を展示。遠藤亮氏の新発見大阪城残念石、さぬき市教育委員会の調査による大串半島の中世石切場の資料も特別展示

共 催：香川大学瀬戸内圏研究センター
協 力：香川大学生涯学習教育研究センター



第6回
ミュージアム
レクチャー

「瀬戸内今昔観光遊覧」

年月日：2009年11月14日(土)
講 師：稲田道彦 (企画展実行委員長、経済学部教授)
丹羽佑一 (博物館長、経済学部教授)
参加者：30名



第5回
企画展

アリの世界「○○してみる」研究室

期 間：2010年7月23日(金)～8月28日(土)

入場者：1,081名

「比べて見る」日本や外国にはたくさんの種類のアリがいます。体のようすを比べてみよう。「よく見てみる」顕微鏡やルーペで拡大して、アリの体を知ろう。「のぞいてみる」アリの巣の中はどうなっているのかな。アリはどんな動きをしているだろう。飼い方も紹介します。「食べてみる」日本や世界にはアリを食べるところもあるんだって!! ほんとかなあ…!?? 「匂ってみる」アリはいろんなにおいを出しているらしいよ。「採ってみる」アリを研究する方法や、採集する道具を紹介

協 力：山根正気・中村京平（鹿児島大学）、鹿児島大学総合研究博物館、
江口克之（長崎大学）、香川大学農学部昆虫学教室

公開
講座

「アリのとり方、飼い方、調べ方」

年月日：2010年7月28日(水)・29日(木)

講 師：伊藤文紀（企画展実行委員長・博物館副館長、農学部教授）

会 場：香川大学博物館

参加者：(1日目) 22名、(2日目) 22名

第6回
企画展

四国遍路が残した資料

期 間：2010年10月26日(火)～11月27日(土)

入場者：648名

四国霊場八十八ヶ所を巡礼する四国遍路の歴史をたどる資料を展示。遍路地図、「四国徧禮道指南」などの道案内にあたるガイドブック、四国の霊場を回った遍路の納経帳などを展示。そのほかに納め札や旅手形、道具類等、江戸時代から昭和初期までの時代の変化で翻弄された遍路の姿が浮き彫りになる資料330点ほどを展示

第14回
ミュージアム
レクチャー

「四国遍路が残した資料」

年月日：2010年11月20日(土)

講 師：稲田道彦（企画展実行委員長、経済学部教授）

会 場：香川大学博物館

参加者：53名



ミュージアム・レクチャー

第1回

2009
5/9

サヌカイト・ コレクション

講師

丹羽佑一

(香川大学経済学部教授・博物館長)



参加者:4名

第2回

2009
6/13

フィールドワークで 地球を探る

講師

寺林 優

(香川大学工学部准教授・博物館副館長)



参加者:9名

第3回

2009
7/11

イルカのからだと 海のゴミ

講師

寺山弘樹

(日本ドルフィンセンター長・
NPO法人日本ドルフィンセラピー協会)



参加者:11名

第4回

2009
9/12

雑草をみて描いてみよう

講師

岡田智子

(岡山市デジタルミュージアム学芸員)

末廣喜代一

(香川大学教育学部教授)



参加者:16名

第5回

2009
10/10

昆虫の色や形には どんな意味があるだろう

講師

安井行雄

(香川大学農学部准教授)



参加者:15名

第6回

2009
11/14

瀬戸内今昔観光遊覧

講師

丹羽佑一

(香川大学経済学部教授・博物館長)

稲田道彦

(香川大学経済学部教授)



参加者:30名

第7回

2009
12/12

人工衛星KUKAIと 香川発宇宙開発

講師

能見公博

(香川大学工学部准教授・
香川衛星プロジェクトSTARS主宰)



参加者:9名

第8回

2010
2/13

瀬戸内に生息する 生物たち

講師

滝川裕子

(香川大学農学部技術補佐員)



参加者:10名

第9回

2010
3/13

親子せっけん教室

講師

北條充敏・富田ゆかり

(香川大学情報図書グループ)




参加者:11名

2010
第10回 5/15

**みんなあつまれ！
わくわく大学たんけん隊**

講師
山本珠美
(香川大学生涯学習教育研究センター准教授)
葛城浩一
(香川大学大学教育開発センター准教授)




参加者:29名

2010
第11回 6/19

**サヌカイトの
考古学入門**

講師
丹羽佑一
(香川大学経済学部教授・博物館長)



参加者:7名

2010
第12回 7/10

**里山の哺乳類を
解剖する**

講師
川口 敏
(香川生物学会常任理事)




参加者:16名

2010
第13回 10/9

**花粉を
観察してみよう**

講師
松居俊典
(香川大学工学部技術職員)



参加者:14名

2010
第14回 11/20

**四国遍路が
残した資料**

講師
稲田道彦
(香川大学経済学部教授)




参加者:53名

2011
第15回 1/29

**みんなあつまれ！
わくわく大学たんけん隊 第2弾**

講師
わくわく大学たんけん☆プロジェクト
リーダー:鳥羽謙仁
(香川大学経済学部2年)
監修:山本珠美
(香川大学生涯学習教育研究センター准教授)



参加者:30名

ものづくり教室 in 香川大学博物館

講師 独立行政法人科学技術振興機構「地域の科学舎推進事業」
かがわ源内ネットワーク
(代表 石原秀則・香川大学工学部准教授)

2010
第1回 12/4


**手作りのおもちゃで
遊ぼう！**



参加者:37名

2011
第2回 1/22

熱気球を作ろう！



参加者:43名

2011
第3回 2/19

**レゴロボットで
遊ぼう！**



参加者:31名

教育活動

● 香川大学教育学部博物館学芸員コース

「マイミュージアム(私設博物館)展」開催

第1回：2009(平成21)年5月19日(火)～29日(金)
第2回：2010(平成22)年6月12日(土)～26日(土)

● 香川大学生涯学習教育研究センター

平成17年度公開講座

実施日：2005(平成17)年7月26日(火)・27日(水)・28日(木)、
8月8日(月)・9日(火)・10日(水)

講座名：恐竜を復元しよう

講師：仲谷英夫(香川大学博物館研究機構、工学部教授)

平成18年度公開講座

実施日：2006(平成18)年5月14日(土)～7月19日(水)

講座名：人類の知的財産を守る

講師：丹羽佑一(博物館委員会委員、経済学部教授)

山本珠美(博物館委員会委員、生涯学習教育研究センター助教授)

ほか

※平成19年度以降の公開講座は、企画展の頁に掲載

● 放送大学香川学習センター

平成20年度面接授業

実施日：2008(平成20)年12月13日(土)・14日(日)

科目名：古代瀬戸内の石の文化

講師：丹羽佑一(博物館長、経済学部教授)

平成22年度面接授業

実施日：2010(平成22)年7月10日(土)・11日(日)

科目名：生命と地球の共進化

講師：寺林 優(博物館副館長、工学部准教授)

平成22年度公開講演会

実施日：2010(平成22)年12月5日(日)

演題：紫雲山弥生人はどこから来たか

講師：丹羽佑一(博物館長、経済学部教授、放送大学客員教授)

● 独立行政法人科学技術振興機構

平成21年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

実施日：2010(平成22)年2月12日(金)・16日(火)・26日(金)

講座名：「モノ」の見方～研究はじめの第一歩～

講師：「石清尾山の昆虫を調べよう」

伊藤文紀(博物館副館長、農学部教授)

「石清尾山塊の地質を調べよう」

寺林 優(博物館副館長、工学部准教授)

「石清尾山で古墳人に会おう」

丹羽佑一(博物館長、経済学部教授)

連携先：香川大学教育学部附属高松中学校

(延べ受講人数 362人)

平成22年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

実施日：2011(平成23)年1月18日(火)・2月1日(火)・8日(火)

講座名：「モノ」の見方～研究はじめの第一歩～

講師：「金山の植生を調べよう」

守屋 均(工学部講師)

「冬の虫たちを調べよう」

伊藤文紀(博物館副館長、農学部教授)

「金山の地質を調べよう」

寺林 優(博物館副館長、工学部教授)

「金山で先史人と会おう」

丹羽佑一(博物館長、経済学部教授)

連携先：香川大学教育学部附属坂出中学校

(延べ受講人数 353人)



研究活動

● 学会発表

中原理恵子・岡野 眞・仲谷英夫・寺林 優・丹羽佑一, 香川大学における大学博物館づくり, 日本地質学会四国支部
第5回講演会(香川大学, 2005年12月)

山本珠美, 香川大学博物館における公開講座の取組～「恐竜を復元しよう」を例に～, 第1回博物科学会(北海道大学,
2006年6月)

寺林 優・山本珠美・倉橋伴知, 大学と地域の連携を深めるための博物館づくり—香川大学博物館の構想から開館まで—,
第3回博物科学会(大阪大学, 2008年6月)

岡野 眞・寺林 優, 大学博物館のファシリティマネジメントに関する考察, 第4回博物科学会(鹿児島大学, 2009年5月)

● 共同研究

2008(平成20)年度人間文化研究機構総合推進事業(課題番号:20301133)「パブリック・ヒューマニティーズの方法論:
学術標本資料ならびに文化資源のネットワーク型共同利用から創出される学術的専門知と公共社会との融和」
(代表 出口正之国立民族学博物館教授、分担 寺林 優)

● 調査研究

博物館展示用標本特別収集(沖縄県石垣島新石垣空港建設現場地内鍾乳洞の鍾乳石), 丹羽佑一・寺林 優・倉橋伴知,
2009(平成21)年3月25日(水)～27日(金), 平成20年度香川大学特定施策推進経費(臨時)

報道状況

2005 (平成17) 年度	2005年7月11日	NHK高松放送局	香川大学工学部でサヌカイトを展示(ゆうどき香川がいっぱい 他)
	2005年7月12日	読売新聞(35面)	眠った資料一般に公開 博物館構想スタート まずサヌカイト展示
	2005年7月12日	四国新聞(22面)	香川大が「大博物館」サヌカイトを初展示
	2005年7月13日	山陽新聞(32面)	香川大を博物館に 展示第1弾サヌカイト
	2005年7月20日	毎日新聞(20面)	香川大で博物館づくり
	2006年1月24日	四国新聞(15面)	大学博物館 学術資料 地域に公開
	2006年3月6日	四国新聞(3面)	月曜随想「クビナガリュウの化石」
2006 (平成18) 年度	2006年8月10日	NHK高松放送局	子供たちが恐竜を復元(ゆうどき香川がいっぱい 他)
	2007年1月20日	リビングたかまつ(5面)	香川大学博物館 第1回学外特別展「香川大学のあしあと」
	2007年1月23日	NHK高松放送局	香川大の資料など展示(ゆうどき香川がいっぱい 他)
	2007年1月23日	RNC西日本放送	今春 香川大博物館開設記念“香川大学のあしあと”(RNC News リアルタイム)
	2007年1月24日	山陽新聞(32面)	研究成果地域に公開 香川大学博物館4月開設
	2007年1月24日	山陽新聞(30面)	歩み知る貴重資料 香川大学博物館特別展示始まる
	2007年1月24日	四国新聞(19面)	香川大の“お宝”公開「博物館構想」高松で初の学外展覧会
	2007年1月25日	朝日新聞(32面)	開かれた大学へ商店街で資料展 香川大
	2007年1月26日	読売新聞(27面)	技術や資料 地域に生かせ 香大博物館 初の学外展
2007 (平成19) 年度	2008年1月18日	読売新聞(26面)	学外特別展「かがわの里山」
	2008年1月22日	KSB瀬戸内海放送	香川大学が自然をテーマに展示会(岡山・香川のニュース)
	2008年1月22日	NHK高松放送局	里山の自然展(ゆうどき香川ニュース610 他)
	2008年1月23日	山陽新聞(28面)	香川大 高松で学外展「かがわの里山」
	2008年1月23日	四国新聞(20面)	「香川大博物館」4月開館 研究資料を地域に公開
	2008年1月25日	朝日新聞(32面)	香大の里山研究紹介 高松で学外展 チョウや骨格標本展示
	2008年2月28日	読売新聞(33面)	香川大に博物館
2008 (平成20) 年度	2008年4月12日	リビングたかまつ(8面)	4月24日午後オープン「香川大学博物館」
	2008年4月16日	スポーツ報知(25面)	四国初の大学附属博物館で志願者減少止める
	2008年4月18日	KSB瀬戸内海放送	四国初 香川大学に博物館(スーパー)チャンネル
	2008年4月24日	KSB瀬戸内海放送	香川大学博物館オープン(岡山・香川のニュース)
	2008年4月24日	NHK高松放送局	香川大に博物館 四国初 香川大学にオープン(ゆうどき香川ニュース610)
	2008年4月24日	RNC西日本放送	四国初！香川大学に付属博物館(RNC News リアルタイム)
	2008年4月24日	TSCテレビせとうち	香川大学博物館オープン(ザニュースTSC)
	2008年4月25日	産経新聞(24面)	香川大に博物館オープン 地域交流拠点目指し
	2008年4月25日	山陽新聞(32面)	収集の資料標本を公開 香川大学博物館が開館
	2008年4月25日	朝日新聞(32面)	香川大が博物館 研究成果を展示 高松にオープン
	2008年4月25日	読売新聞(29面)	香川大博物館が開館
	2008年4月25日	四国新聞(25面)	研究成果惜しみなく 香大博物館オープン 全学部の資料展示
	2008年5月4日	山陽新聞(23面)	香川大学博物館オープン 知的好奇心がいっぱい
	2008年5月9日	NHK高松放送局	大学に博物館(ゆうどき香川ニュース610・中継おじゃまします)
	2008年6月3日	RNCラジオ	ウズベキスタンの現代建築(情報てんこもりラジオでDON)
	2008年6月6日	朝日新聞(25面)	ウズベキスタンの建築・文化紹介 香川大博物館第1回企画展
	2008年6月12日	NHK高松放送局	ウズベキスタンの建築を紹介(ゆうどき香川ニュース610)
	2008年6月13日	山陽新聞(28面)	生活彩る小物紹介 香川大博物館 ウズベキスタン展
	2008年6月17日	毎日新聞(20面)	四国ミュージアム回廊 香川大学博物館 人工衛星STARSいよいよ宇宙へ
	2008年6月23日	RSK山陽放送	「ウズベキスタンの現代建築と世界遺産」展について
	2008年6月23日	読売新聞(27面)	ウズベキスタン建築 伝統と華麗 香川大博物館が企画展
	2008年7月1日	かがわ探検ミュージアム(15頁)	春オープン!! 香川大学博物館でいろいろな発見を楽しもう!!
	2008年7月2日	文教速報(12面)	香川大博物館「ウズベキスタンの現代建築と世界遺産」展を開催
	2008年7月29日	RNCラジオ	安井行雄第2回企画展実行委員長(ミュージック・イン・ランチボックス)
	2008年7月31日	NHK高松放送局	世界の昆虫展(ゆうどき香川ニュース610 他)
	2008年8月13日	FM香川	香川大学博物館「昆虫のふしぎ」展(786・SUPER MEDIO)
	2008年8月29日	読売さぬきネット	珍しい昆虫いっぱい
2008年8月	RSK山陽放送	「昆虫のふしぎ」展について	
2008年9月7日	四国新聞(1面)	一日一言「香大博物館の昆虫展」	
2008年9月8日	読売新聞(27面)	擬態昆虫不思議の世界 香川大博物館 標本670点展示	
2008年9月12日	高松ケーブルテレビ	「昆虫のふしぎ」展について(PEPTV～地域密着情報系～)	
2008年10月22日	文教速報(8面)	香川大博物館の出展協力者に感謝状贈呈	
2008年11月1日	かがわ探検ミュージアム(16頁)	香川大学のお宝を見て、研究の成果を知ろう!!	
	2009年1月1日	かがわ探検ミュージアム(15頁)	大昔の瀬戸内海は陸だった!
2009 (平成21) 年度	2009年5月1日	かがわ探検ミュージアム(14頁)	大昔の瀬戸内海は陸だった!
	2009年5月23日	リビングたかまつ(13面)	第2土曜は1日香川大生「ミュージアム・レクチャー」始まりました
	2009年7月23日	RNC西日本放送	瀬戸内海の生き物と先端技術に触れる 香川大学で企画展(RNC News リアルタイム)
	2009年7月23日	KSB瀬戸内海放送	「瀬戸内海・干潟・海浜の生き物」展(岡山・香川のニュース)
	2009年8月1日	NHK高松放送局	瀬戸内海が育む命(ゆうどき香川ニュース610 他)
	2009年8月2日	産経新聞(24面)	企画展「瀬戸内海・干潟・海浜の生き物」香川大学博物館
	2009年8月28日	FM香川	「瀬戸内海・干潟・海浜の生き物」展について(786・SUPER MEDIO)
	2009年9月3日	朝日小学生新聞(3面)	大学の博物館「香川大学博物館」標本・資料紹介 地域にちなむ企画
2010 (平成22) 年度	2010年7月23日	NHK高松放送局	アリの生態を紹介(845かがわ 他)
	2010年8月19日	FM香川	香川大学博物館 第5回企画展「アリの世界」(786・SUPER MEDIO)
	2010年10月28日	NHK高松放送局	四国遍路の資料展(ゆう6かがわ 他)
	2010年11月8日	山陽新聞(21面)	四国遍路往時に光 江戸期から昭和初期 指南書や納経帳展示
	2010年11月11日	四国新聞(22面)	四国遍路の足跡探る 香大で資料展 納経帳や道案内書330点
	2010年11月11日	四国新聞(24面)	「はやぶさ」高松で公開 来年10月22、23日
	2010年12月7日	四国新聞(24面)	「はやぶさカプセル」香川大で展示へ(ゆう6かがわ 他)
	2010年12月15日	NHK高松放送局	「はやぶさ」カプセル展示 10月香川大 本体やパラシュート
	2011年1月1日	読売新聞(36面)	「はやぶさ」の旅 香川でも カプセル、10月に香川大博物館で展示
		2011年1月10日	朝日新聞(17面)

組織

2006(平成18)年度

図書館・情報機構長 前田 肇 学術担当理事・副学長

代表 岡野 眞 工学部教授
 事務補佐員 西浦 敦子(～2006.8.31)
 事務補佐員 黒瀬由美子(2006.9.1～)

博物館委員会		
工学部・委員長	教授	岡野 眞
教育学部	教授	末廣喜代一
教育学部	講師	松下 幸司
経済学部	教授	丹羽 佑一
経済学部	教授	稲田 道彦
連合法務研究科	教授	高橋 正俊
医学部	助教授	村主 節雄
医学部	技官	永田 若
工学部	教授	伊藤 寛
工学部	助教授	寺林 優
農学部	教授	市川 俊英
農学部	教授	伊藤 文紀
生涯学習教育研究センター	助教授	山本 珠美

2007(平成19)年度

図書館・情報機構長 前田 肇 学術担当理事・副学長

館長 丹羽 佑一 経済学部教授
 副館長(研究担当) 寺林 優 工学部准教授
 副館長(資料担当) 市川 俊英 農学部教授
 事務補佐員 大谷亜樹子
 事務補佐員 倉橋 伴知

博物館会議		
博物館	館長	丹羽 佑一
工学部	副館長(研究担当)	寺林 優
農学部	副館長(資料担当)	市川 俊英
教育学部	教授	末廣喜代一
教育学部	教授	葛西 崇
教育学部	准教授	松下 幸司
経済学部	教授	稲田 道彦
経済学部	教授	姚 峰
法学部	教授	飯島 暢
連合法務研究科	教授	高橋 正俊
地域マネジメント研究科	教授	緒方 俊則
医学部	教授	西山 成
医学部	技術職員	永田 若
工学部	教授	岡野 眞
農学部	准教授	安井 行雄
生涯学習教育研究センター	准教授	山本 珠美
情報図書グループ	リーダー	吉見 賢一

2008(平成20)年度

図書館・情報機構長 前田 肇 学術担当理事・副学長

館長 丹羽 佑一 経済学部教授
 副館長(研究担当) 寺林 優 工学部准教授
 副館長(資料担当) 伊藤 文紀 農学部教授
 事務補佐員 大谷亜樹子
 事務補佐員 倉橋 伴知

博物館会議		
博物館	館長	丹羽 佑一
工学部	副館長(研究担当)	寺林 優
農学部	副館長(資料担当)	伊藤 文紀
教育学部	教授	末廣喜代一
教育学部	教授	田中 健二
教育学部	准教授	松下 幸司
経済学部	教授	稲田 道彦
経済学部	教授	金 徳謙
法学部	准教授	岸野 薫
連合法務研究科	教授	高橋 正俊
地域マネジメント研究科	教授	畑中 和義
医学部	教授	村主 成
医学部	助教	松本 良樹
医学部	技術職員	永田 若
工学部	教授	岡野 眞
農学部	准教授	安井 行雄
生涯学習教育研究センター	准教授	山本 珠美
情報図書グループ	リーダー	吉見 賢一

2009(平成21)年度

図書館・情報機構長 前田 肇 学術担当理事・副学長

館長 丹羽 佑一 経済学部教授
 副館長(研究担当) 寺林 優 工学部准教授
 副館長(資料担当) 伊藤 文紀 農学部教授
 事務補佐員 大谷亜樹子
 事務補佐員 倉橋 伴知(～2009.9.30)
 事務補佐員 鳥山さやか(2009.10.21～)

博物館会議		
博物館	館長	丹羽 佑一
工学部	副館長(研究担当)	寺林 優
農学部	副館長(資料担当)	伊藤 文紀
教育学部	教授	末廣喜代一
教育学部	教授	田中 健二
教育学部	准教授	松下 幸司
経済学部	教授	稲田 道彦
経済学部	准教授	松岡 久美
法学部	准教授	岸野 薫
連合法務研究科	教授	柴田 潤子
地域マネジメント研究科	教授	畑中 和義
医学部	助教	田中 澄子
医学部	講師	松本 良樹
医学部	技術職員	永田 若
工学部	教授	岡野 眞
農学部	准教授	安井 行雄
生涯学習教育研究センター	准教授	山本 珠美
情報図書グループ	リーダー	北條 充敏

2010(平成22)年度

図書館・情報機構長 柴田 昭二 情報担当副学長

館長 丹羽 佑一 経済学部教授
 副館長(研究担当) 寺林 優 工学部准教授(教授2011.1.1～)
 副館長(資料担当) 伊藤 文紀 農学部教授
 事務補佐員 大谷亜樹子
 事務補佐員 鳥山さやか(～2010.9.17)
 事務補佐員 藤城 早希(2010.10.1～)

博物館会議		
博物館	館長	丹羽 佑一
工学部	副館長(研究担当)	寺林 優
農学部	副館長(資料担当)	伊藤 文紀
教育学部	教授	末廣喜代一
教育学部	教授	田中 健二
教育学部	准教授	松下 幸司
経済学部	教授	稲田 道彦
経済学部	准教授	松岡 久美
法学部	准教授	吉井 匡
連合法務研究科	教授	柴田 潤子
地域マネジメント研究科	教授	畑中 和義
医学部	助教	田中 澄子
医学部	助教・学内講師	松本 良樹(～2010.8.31)
医学部	技術職員	永田 若
工学部	教授	岩本 直樹
農学部	准教授	安井 行雄
農学部	助教	松本 良樹(2010.9.1～)
生涯学習教育研究センター	准教授	山本 珠美
情報図書グループ	リーダー	北條 充敏

2011(平成23)年度

図書館・情報機構長 柴田 昭二 情報担当副学長

館長 寺林 優 工学研究院教授
 副館長(研究担当) 山本 珠美 生涯学習教育研究センター准教授
 副館長(資料担当) 伊藤 文紀 農学研究院教授
 事務補佐員 大谷亜樹子
 事務補佐員 藤城 早希

(2011年4月1日現在)

博物館会議		
博物館	館長	寺林 優
工学部	副館長(研究担当)	山本 珠美
農学部	副館長(資料担当)	伊藤 文紀
教育学部	事務補佐員	大谷亜樹子
教育学部	事務補佐員	藤城 早希

規程

香川大学博物館規程

平成 19 年 4 月 1 日

- (趣旨)
第 1 条 この規程は、香川大学図書館・情報機構規則第 3 条第 3 項の規定に基づき、香川大学博物館（以下「博物館」という。）に関し必要な事項を定める。
- (目的)
第 2 条 博物館は、香川大学（以下「本学」という。）の学術標本資料の収蔵・管理、展示、公開及び学術標本資料に関する教育研究支援を行うとともに、学内外の教育研究活動に寄与することを目的とする。
- (業務)
第 3 条 博物館は、次の各号に掲げる業務を行う。
 (1) 学術標本資料の調査・収集、分類・保存及びその利用に関すること。
 (2) 学術標本資料の解析及び学術評価に関すること。
 (3) 学術標本資料の情報化に関すること。
 (4) その他博物館の目的を達成するために必要なこと。
- (組織)
第 4 条 博物館に、研究部及び資料部を置く。
 2 研究部及び資料部に関し必要な事項は別に定める。
- (博物館会議)
第 5 条 博物館の円滑な運営を図るため、香川大学博物館会議（以下「博物館会議」という。）を置く。
 2 博物館会議に関し必要な事項は、別に定める。
- (職員)
第 6 条 博物館に次の各号に掲げる職員を置く。
 (1) 館長
 (2) 副館長（研究担当）
 (3) 副館長（資料担当）
 (4) 兼務職員
 (5) その他の職員
- (館長)
第 7 条 館長の任命は、本学の専任教授の中から図書館・情報機構長が推薦し、学長が行う。
 2 館長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、当該館長を任命する学長の任期の末日以前とする。
 3 前項の規定にかかわらず、館長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (副館長)
第 8 条 副館長の任命は、本学の専任教員の中から館長の申し出に基づき、学長が行う。
 2 前項の申出は、博物館会議が選考した候補者を推薦することにより行う。
 3 副館長は、館長の職務を助け、博物館の業務を処理する。
 4 副館長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、副館長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (兼務職員)
第 9 条 博物館に、本学の学術標本資料の調査・収集、分類・保存のため、及び学術標本資料を用いた教育・研究のため兼務職員を置く。
 2 兼務職員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
 3 兼務職員は、学内から選出するものとし、所属部局等の長の同意を経て、館長が委嘱する。
- (学外協力者)
第 10 条 博物館に、学外協力者を置くことができる。
 2 学外協力者は、博物館会議の議を経て、館長が委嘱する。
- (事務)
第 11 条 博物館の事務は、当分の間、学術室情報図書グループにおいて処理する。
- (雑則)
第 12 条 この規程に定めるもののほか、博物館に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

香川大学博物館学外協力者に関する申合せ

- (趣旨)
1 香川大学博物館（以下「本館」という。）の研究等の推進を図るため、香川大学博物館規程第 10 条第 1 項の規定に基づく学外協力者を置くときは、この申合せにより必要な事項を定める。
- (申込)
2 前項の学外協力者として本館における活動を行おうとする者がいる場合は、別記様式による申込書に所定の記載をさせ、館長へ提出させるものとする。
- (選考)
3 館長は、前項の申込書を提出した者を学外協力候補者として本館会議に推薦し、学外協力者の受入れ及び委嘱について選考する。
- (期間)
4 学外協力者の委嘱期間は 2 年とし、満了後の期間更新を妨げない。
- (経費)
5 学外協力者の受入れ及び本館における活動に要する経費は、すべて学外協力者の負担とする。ただし、ボランティア保険は、博物館が加入する。
- (活動内容)
6 学外協力者は、本館の職員と連携し、本館の標本の整理・保管、その標本に基づく研究等のための協力を行うものとする。
- (成果取扱)
7 前項の活動成果の取扱いについては、当該研究データ等を公開する場合に館長の承諾がなければこれを行わない等、あらかじめ学外協力者からその旨を誓約させておくものとする。
- (その他)
8 この申合せに定めるもののほか、学外協力者に関して必要な事項は、本館会議が別に定める。

附 則

この申合せは、平成 21 年 4 月 1 日から適用する。

香川大学博物館会議規程

平成 19 年 4 月 1 日

- (趣旨)
第 1 条 この規程は、香川大学博物館規程第 5 条第 2 項の規定に基づき、香川大学博物館会議（以下「博物館会議」という。）に関し、必要な事項を定める。
- (任務)
第 2 条 博物館会議は、香川大学博物館（以下「博物館」という。）に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。
 (1) 博物館の運営に関する事項
 (2) 博物館資料の運用及び整備に関する事項
 (3) その他博物館の管理運営に関して必要とする事項
- (組織)
第 3 条 博物館会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 (1) 館長
 (2) 副館長（研究担当）
 (3) 副館長（資料担当）
 (4) 各学部（法学部を除く）から選出された教員各 2 人
 (5) 法学部及び香川大学・愛媛大学連合法務研究科のうちから選出された教員 2 人、地域マネジメント研究科から選出された教員 1 人
 (6) 生涯学習教育研究センターから選出された教員 1 人
 (7) 情報図書グループリーダー
 (8) その他館長が必要と認めた者
 2 前項第 4 号から第 6 号までの委員数において、副館長が任命された部局はその副館長を選出された委員数とみなす。
 3 第 1 項第 4 号から第 6 号まで及び第 8 号の委員は、それぞれの部局等の長の推薦に基づき、学長が任命する。
 4 第 1 項第 4 号から第 6 号まで及び第 8 号の委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (議長)
第 4 条 博物館会議に議長を置き、館長をもって充てる。
 2 議長は、博物館会議を招集し、主宰する。
 3 議長に事故があるときは、議長の予め指名した副館長がその職務を代行する。
- (議事)
第 5 条 博物館会議は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。
 2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- (委員以外の者の出席)
第 6 条 博物館会議は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
- (専門会議)
第 7 条 博物館会議は、専門の事項を検討するため、必要に応じて専門会議を置くことができる。
 2 専門会議に関し必要な事項は、別に定める。
- (事務)
第 8 条 博物館会議の事務は、当分の間、学術室情報図書グループにおいて処理する。
- (雑則)
第 9 条 この規程に定めるもののほか、博物館会議に関し必要な事項は、博物館会議が別に定める。

附 則

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

香川大学博物館会議規程（平成 23 年 4 月 1 日改正箇所）

- (組織)
第 3 条 博物館会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 (1) 館長
 (2) 副館長（研究担当）
 (3) 副館長（資料担当）
 (4) 各研究科から選出された教員各 2 人
 (5) 教育・学生支援機構において選出された教員 1 人
 (6) 情報図書グループリーダー
 (7) その他館長が必要と認めた者
 2 前項第 4 号及び第 5 号の委員数において、副館長が任命された部局等はその副館長を選出された委員数とみなす。
 3 第 1 項第 4 号、第 5 号及び第 7 号の委員は、それぞれの部局等の長の推薦に基づき、学長が任命する。
 4 第 1 項第 4 号、第 5 号及び第 7 号の委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。



ことでん
高松築港駅

玉藻公園

JR高松駅

香川大学
北
幸町
キャンパス

高松工業高校

高松北署

裁判所

片原町駅

昭和町駅

高松市図書館

幸町

高松高校

市役所

国道11号

中央公園

日赤

宮脇町

県立中央病院

香川県庁

中央通り

瓦町駅

英明高校

栗林公園
北口駅

栗林駅

栗林公園